

関東チアリーディング選手権大会レポート

～JAPAN CUPへつなぐ努力の集大成～

2025年6月20日(金)から22日(日)の3日間にかけて、「第27回関東チアリーディング選手権大会 兼 JAPAN CUP 2025 関東地区予選」が国立代々木競技場第一体育館にて開催されました。

今大会は地区予選の第4弾として開催され、全国で最も多くのチームが出場する大会となりました。3日間にわたり、JAPAN CUP出場を目指し、合計234チーム・約3000人のチアリーダーたちが代々木競技場第一体育館に集結。それぞれのチームが、日々の練習の成果を存分に発揮し、集大成といえる演技を披露しました。

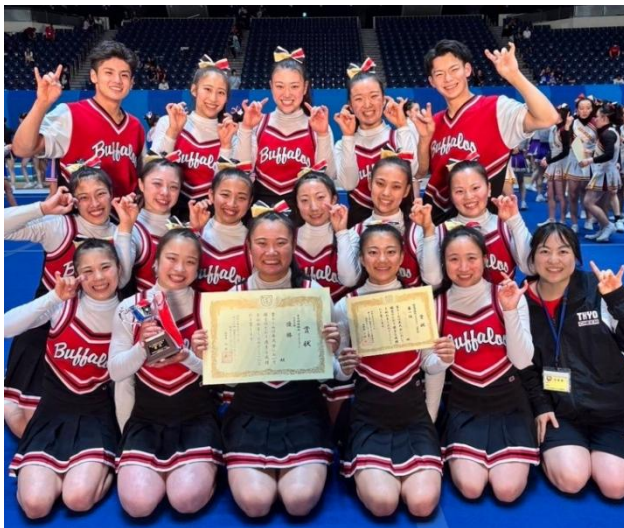
DIVISION①・DIVISION②は、定められたサイドラインとチアの中で、アームモーション・ジャンプ・スタントの技術力およびその同調性、フォーメーションの正確性などを競う規定演技と自由演技の合計得点でJAPAN CUPへの出場権が競われます。限られた出場枠をかけて競技の中で、自由演技では自チームの特色を活かし、創意工夫を凝らした演技を披露。規定演技では、すべての動作のタイミングや形を丁寧に揃えることに注力し、スタントやジャンプの完成度を高めるために積み重ねてきた練習の成果を発揮しました。

ここからは、自由演技競技DIVISION①総合優勝、各部門優勝チームをご紹介します。

【帝京大学（東京都）】

自由演技競技DIVISION① 総合優勝（DIVISION①大学の部 優勝）

規定演技競技DIVISION① 総合第一位（DIVISION①大学の部 第一位）



帝京大は2名の男子選手を含んだ男女混成チームで今大会に臨みました。序盤にパートナースタントの落下ミスはあったものの、高難度のタンブリングやジャンプの組み合わせや力強いアームモーション・ダンスには見応えがありました。

自由演技・規定演技ともに関東地区第一位を獲得し、全てのチアリーディング技術においてトップレベルの実力を証明する結果となった帝京大。それでもなお、さらなる成長の進化の可能性を感じさせる演技内容

であり、JAPAN CUPで活躍に一層期待が高まります。

帝京大学のほか、日本体育大学（東京都）、桜美林大学（東京都）など7チームが準決勝進出。さらに、東海大学（神奈川県）、学習院大学同女子大学（東京都）など10チームがフライデートーナメントへの出場権を獲得しました。

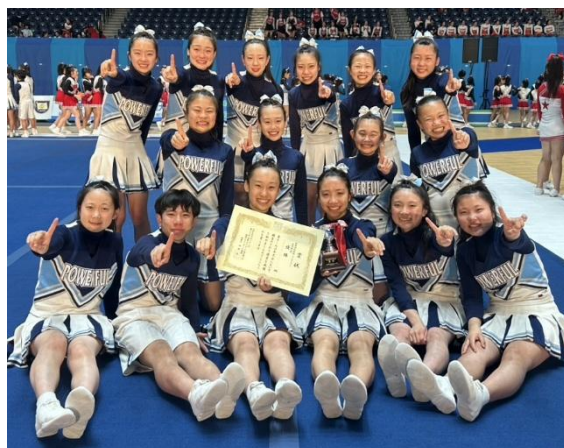
【伊豆の国チアリーディングチーム・A（静岡県）】

自由演技競技DIVISION① 中学校の部 優勝

昨年のJAPAN CUPで中学校の部 優勝を果たした伊豆の国チアは、今年もその勢いを維持したまま今大会に挑みました。

ジャンプやタンブリングには高さがあり、多様なフォーメーションチェンジでマット全面を利用し、笑顔と大きな声で会場中をリードしながら、一体感のある演技で盛り上げました。

完成度を追求し、練習を重ねてきたスタント技では、惜しくも落下のミスがありました。JAPAN CUPまでの更なるレベルアップが期待されます。



また、あつぎチアリーディングチーム（神奈川県）は、連続性とスピード感あふれる演技で会場を大いに沸かせ、伊豆の国チアに僅差で迫る見応えある演技を披露しました。

中学校の部は、伊豆の国チア、あつぎチアのほか、目白研心中学校・A（東京都）、URAWAチアリーディングクラブ（埼玉県）が準決勝に進出。広尾学園中学校（東京都）など6チームがフライデーターナメントへ進出しました。

また、中学校ユースの部では、横浜女学院中学校（神奈川県）が、準決勝進出を果たしました。

【目白研心高等学校（東京都）】

自由演技競技DIVISION① 高等学校の部 優勝



高等学校の部は、例年エントリー数が最も多く、わずかなミスが順位に大きく影響するという、非常にプレッシャーのかかる部門です。

今年は49チームがエントリーし、その中で準決勝へ進出できるのはわずか11チームという、極めて狭き門となりました。

この激戦を制し、優勝を勝ち取ったのは、目白研心高等学校。つま先まで意識されたバスケット トス、スタントには安定感と

美しさが見られ、ジャンプやタンブリングにも高度な技術力がうかがえました。

昨年度大会優勝の千葉明德高等学校（千葉県）は準優勝、昨年度準優勝の広尾学園高等学校（東京都）は第3位を獲得。いずれのチームも自由演技での得点が200点を超えており、JAPAN CUPでの決勝進出、そして上位入賞が期待されます。

高等学校の部は、上述の3チームのほか、横浜女学院高等学校（神奈川県）、東京高等学校（東

京都)、日本大学高等学校(神奈川県)など、11チームが準決勝に進出。法政大学高等学校(東京都)、相模女子大学高等部(神奈川県)など、17チームがフライデーターナメント進出となりました。

【クラブチームツイスターズ・A(東京都)】

自由演技競技DIVISION① 社会人の部 優勝

昨年度大会に続き、クラブチームツイスターズ・Aが社会人の部で優勝を果たしました。ピラミッドで最高難度とされるトリプルアップ(3回の横回転)を成功させるなど、演技には高度なスタントが多数盛り込まれ、長年の経験に裏打ちされた選手層の厚さが光りました。一方、昨年度準優勝のチアリーディングチームBUBBLES・A(東京都)と、第3位のチアリーディングチームREGULUS・A(神奈川県)は、果敢に高難度技に挑戦したものの、大きなミスが重なり、演技全体の完成度に精彩を欠く結果となりました。

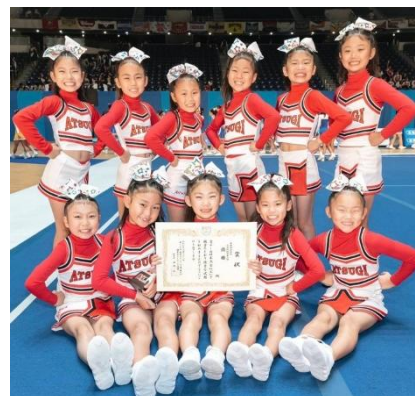
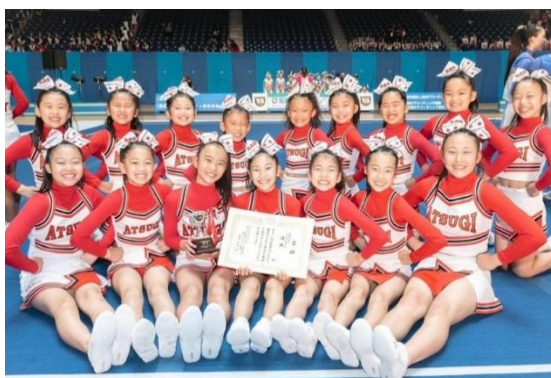


社会人の部では、難易度こそ前述のチームと比較して抑えられていたものの、完成度の高い演技で印象を残したクラブチームデビルス(神奈川県)が、自由演技第3位、規定演技第1位を獲得。クラブチームツイスターズ・Aに続き総合2位となって準決勝に進出を果たしました。準決勝進出が期待されていたBUBBLESは、A・B両チームともにフライデーターナメントへの出場にとどまり、さらに、REGULUS・Aおよびツイスターズ・Bを加えた合計4チームがフライデーターナメントに進出しました。

【あつぎチアリーディングチーム(神奈川県)】

自由演技競技 小学校低学年の部 優勝

自由演技競技 小学校高学年の部 優勝



小学校低学年の部では、安全規則によりバスケット トスなどトップを空中に投げ上げる動作が禁止されており、これは他の部門との大きな違いとなっています。しかし、同部門に出場したあつぎチアリーディングチームは、そうしたルールの制約を感じさせないほど多彩で迫力あるス

タンツ技を次々と披露。キレのあるタンブリングやアームモーションに加え、ポンポンを巧みに生かしたダンスで会場を魅了し、昨年大会に続き見事優勝を果たしました。
準優勝はこみねチアリーディングチーム（東京都）、第3位はURAWAチアリーディングクラブ（埼玉県）が獲得しました。

小学校高学年の部に出場した同チームは、昨年大会で僅差により優勝を逃しましたが。今大会では、柔軟性を活かした美しいスタンツや、高さのあるバスケット トスなどを巧みに織り交ぜ、スピード感と連続性、そして安定感のある演技で会場を大いに沸かせました。
昨年度優勝の伊豆の国チアリーディングチーム（静岡県）は、惜しくも一步及ばず準優勝。第3位には、小学校低学年の部でも好成績を収めたURAWAチアリーディングクラブ（埼玉県）が入りました。

なお、小学校低学年および高学年の部は、地区予選への出場がJAPAN CUP出場の条件となっており、出場したすべてのチームにJAPAN CUPへの出場権が与えられます。
8月の本大会に向けて、全チームの更なる飛躍が期待されます。

自由演技では、これまでにご紹介した部門に加え、DIVISION①高等学校ユース・中学校ユースの部、マスタース・小学校高学年ユースの部、DIVISION②も開催されました。

また、スタンツ専門技術で競う部門として、男女1名ずつの選手で演技を競う「ダブルス演技競技」、4名から5名の選手で構成される「スモールグループス演技競技（女子部門・男女混成部門）」、さらに、コロナ禍の中で新設された、スタンツ以外のチアリーディング技術を競う、「チアリーディングスピリッツ演技競技」も開催され、いずれも、所定の条件を満たしたチームがJAPAN CUPへの出場権を獲得しました。

このほか、ターンやチアジャンプなどの規定要素を取り入れた「チアダンス演技競技」「アーバンチアダンス演技競技」やエキシビションも行われました。

チアやサイドラインの場面では、多くのチアリーダーが互いを応援し合い、観客の皆様もカラーボードなどの手具を用いて選手たちの掛け声に応えるなど、チアリーディングスピリッツあふれる熱い3日間となりました。

なお、大会の結果詳細については、ホームページ内の大会情報をぜひご覧ください。

本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。

Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.